



知りたい 福山の 主な出来事

- 1916 (大正5年) 7月 市制施行して福山市となる
- 1919 (大正8年) 7月 芦田川大水害
- 1924 (大正13年) 10月 鞆仙酔島「名勝(鞆公園)」に指定
- 1933 (昭和8年) 1月 深安郡川口・手城・深津・奈良津・吉津・木之庄・本庄村、沼隈郡神島・佐波・草戸村の10カ村と合併(人口55,996人、面積31.85km²)
- 1935 (昭和10年) 12月 福塩線開通(福山〜府中)
- 1942 (昭和17年) 7月 沼隈郡山手・郷分村と合併(人口60,476人、面積40.83km²)
- 1945 (昭和20年) 8月 福山空襲により市街地の約8割を焼失
- 1949 (昭和24年) 9月 第1回市営競馬開催
- 1954 (昭和29年) 3月 鞆軽便鉄道廃止(福山〜鞆)
- 3月 松永市制を施行
- 1956 (昭和31年) 3月 南公園(現在のぼら公園)に約1,000本のぼらの苗を植え、ぼらのまちづくりが始まる
- 9月 沼隈郡津之郷・赤坂・瀬戸・熊野村、鞆水呑町・深安郡引野・市千田・御幸村の10カ町村と合併(人口128,150人、面積136.36km²)
- 1961 (昭和36年) 10月 日本鋼管福山製鉄所立地決定調印



1960年ごろ



大正時代

福の山 95市制施行周年

福山市が産声をあげ、今年で95周年。先人のためめぬ努力により発展を遂げたまちの姿を振り返る。

福山駅

福山市誕生から現在まで、交通の中心としてにぎわってきた福山駅。市民が集う場所として、時代とともに成長し続けてきた。そして2011年(平成23年)、新しい福山の玄関口として、さらなる発展を遂げる。



トピックス

福山市のなりたち

■江戸時代、徳川家康のいこいであった、水野勝成が城を築き、城下町として発展してきた福山は、1916年(大正5年)7月1日に、全国で73番目、県内では広島、尾道、呉に次いで4番目に市制を施行し、福山市となった。当時の人口は約3万2千人、面積は5.8平方キロメートル。市制施行後、当時の市域の9割が被害にあった大水害などの困難を乗り越え、上水道の敷設、芦田川の改修などに取り組んだ。

戦災からの復興

■1945年(昭和20年)8月8日の福山空襲で市街地の8割が焦土と化した。市民の旺盛な復興意欲と、郷土愛、そして都市事業計画によって復興へまい進した。1956年(昭和31年)に隣接する10カ町村と合併し、国道2号、182号などの基盤整備を進めて、山陰山陽および四国を結ぶ産業、文化、交通の要衝都市として急速に発展した。

- 1962(昭和37)年 深安郡深安町と合併(人口15,331人、面積156.56km²)
- 1966(昭和41)年 松永市と合併(人口213,090人、面積209.02km²)
- 1967(昭和42)年 自動車ナンバープレートに「福山」登場
- 1974(昭和49)年 芦品郡芦田町と合併(人口28,903人、面積246.14km²)
- 1975(昭和50)年 福山市立女子短期大学開学
- 1984(昭和59)年 山陽新幹線開通(岡山〜博多)
- 1985(昭和60)年 市の花に「ばら」を制定
- 1988(昭和63)年 山陽自動車道(福山東IC〜早島IC)開通
- 1998(平成10)年 中核市移行
- 2003(平成15)年 沿限郡内海町・芦品郡新市町と合併(人口412,567人、面積430.28km²)
- 2005(平成17)年 沿限郡沿限町と合併(人口426,795人、面積461.23km²)
- 2006(平成18)年 深安郡神辺町と合併(人口468,637人、面積518.07km²)
- 2011(平成23)年 福山市立大学開学

繊維ビル



現在

1961年(昭和36年)に福山駅前完成し、繊維問屋などで賑わった繊維ビル。2011年(平成23年)に福山の新たな顔として、アイネスフクヤマに姿を変えた。



2008年ごろ



2011年予定

福山の歴史について

■福山市は1916年(大正5年)市制施行以来、さまざまな困難を乗り越えて、復興し成長してきた。現在では福山市立大学が開学。アイネスフクヤマも完成し、駅前開発も進んでいる。「ばらのまちづくり」を今に受け継ぎ、2016年(平成28年)に100周年を迎える福山市。100万本のばらのまちへの取り組みは続く。



昭和初期まで



現在

1938年(昭和13年)、入り江の埋め立てにより、長い間親しまれてきた木綿橋が廃止された。

木綿橋

軽工業から重工業都市へ

■福山市は古くから地場の繊維産業を基盤としてきたが、1961年(昭和36年)に福山地区単二工場としては世界最大といわれる日本鋼管福山製鉄所の立地決定により、重工業主体の産業都市へ大きく舵を切ることになる。1966年(昭和41年)の製鉄所操業開始とともに関連企業も進出し、瀬戸内海の臨海工業都市として注目される。

中核都市としての今

■1998年(平成10年)4月、中核市に移行する中で、国や県から移譲された事務権限を活用し、市民サービスの向上と、あらゆる世代で幸福感を感じられる自主・自立のまちづくりを進めている。また、平成の大合併で、2003年(平成15年)から2006年(平成18年)にかけて4町と合併を重ね、今では市域518.11平方キロメートル、人口約47万2千人の中国地方4番目の都市となっている。市制施行100周年に向け、求心力のある備後の中核都市として、いつまでも住み続けたいと思える、持続可能な未来志向のまちづくりに取り組み、都市ブランド力にも磨きをかけている。